

新日本有限責任監査法人

不正事例に学べ!

第13回
従業員による人件費不正

五藤徳彦 (ことうのりひこ)

新日本有限責任監査法人 スタッフ
2012年、新日本有限責任監査法人に入所後、化粧品業を中心に、機械製造業、証券代行業、リース業等幅広い業界の監査業務に従事。その他、内部統制アドバイザー等の業務も担当。



公認会計士の五藤です。第10回のコラムに引き続き、今回も人件費に関する不正についてご紹介いたします。今回は従業員が主体となっており、人件費不正です。

①架空残業代の受給 (不正事例)

従業員Aは、得意先に訪問後定時に直帰したが、得意先を出た時間を偽り残業したものととして勤務時間を申請した。上司は残業申請内容と従業員Aが提出している業務日報とを照らし合わせ、齟齬がなかったため承認した。その結果、従業員Aに架空の残業代が支払われた。

（対応策）

残業代は各従業員の残業時間により計算して残業代の支払いが行われますが、その残業時間の把握については従業員の自己申告によっている会社も多いと思います。特に営業職等の外回りが主の従業員については、その勤怠状況を正確に把握することが難しくなります。

完全に防止するための対策を講じることが困難な場合が多いと思いますが、従業員へのけん制を働かせることである程度防止できます。たとえば以下のような対応策が考えられます。

・残業時間の事前申請状況と実際の時間のかい離している場合に理由の説明を求め、その合理性について検討する

・従業員ごとの残業時間の推移を定期的にモニタリングし、残業時間の多い従業員や、急に増加した従業員について理由を調査する

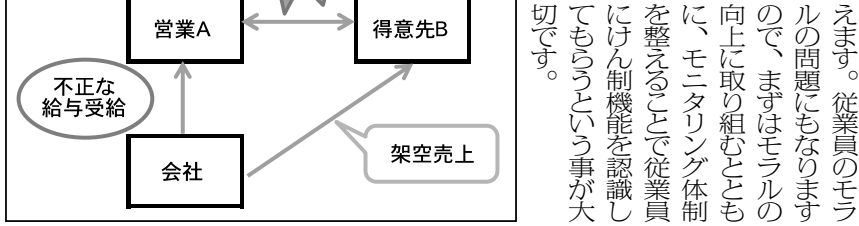
・従業員が提出する日報等について、可能な場合には日報に記載されている訪問先に、定期的に訪問状況をヒアリングする

（対応策）

営業職等の場合に、営業成績が人事考課に反映される、もしくは営業成績に応じて歩合給を支給している場合が多いと思います。このような場合にも営業

・得意先からの入金状況の確認により、発注額と実際の入金額の整合性を確認する

・受注額の水増しされた場合、その分は入金に伴わないため、その



初めてメイクをしたのはいつか尋ねたところ、「高校生」が26.0%で最多となった。30代は高校生が28.2%が1位、40代は「大学生」が29.7%で1位となっている。20代は「小学生以前」(10.5%)から「社会人」(18.4%)まで幅広くばらける結果となり、「していない」(10.5%)も含めて分散傾向がみられた。

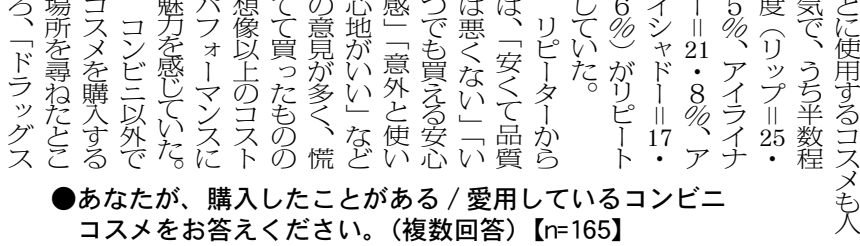
初めてメイクをしたきっかけ(複数回答)については、「友人が化粧をしていたので」(35.7%)が1位だった。20代は「友人が化粧をしていて、20代では「気になったので」(45.2%)が1位だが、40代は「身だしなみとして化粧が必要だったので」(35.6%)

「コンビニコスメ」について実態調査

3人に1人が購入経験あり、購入・愛用とも「リップ」が1位

総合マーケティング支援を行うネオマーケティングは、2月23日〜25日にかけて、「都三県(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)に在住の働く女性500人(20〜49歳、20代1100名、30代1200名、40代1200名)を対象に「コンビニコスメ」をテーマにしたインターネットリサーチを実施した。

コンビニコスメを購入した結果となった。コンビニコスメは急を要する時1回(6.1%)の順となった。購入したことがあるあるアイテム(10.3%)、「1週間に1回」(6.1%)の順となった。購入したことがあるあるアイテム(10.3%)、「1週間に1回」(6.1%)の順となった。購入したことがあるあるアイテム(10.3%)、「1週間に1回」(6.1%)の順となった。



と使用するコスメも人気が、うち半数程度(リップ25.5%、アイライナー21.8%、アイシャドウ17.6%)がリピートしている。リピーターからは、「安くて品質は悪くない」「いつでも買える安心感」「意外と使い心地がいい」などの意見が多く、慌てて買ったものの想像以上のコストパフォーマンスに魅力を感じていた。コンビニ以外でコスメを購入する場所を尋ねたところ、「ドラッグス

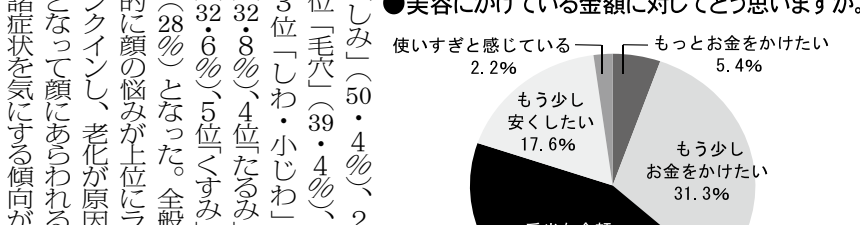
92.7%と圧倒的多数となった。次いで、「百貨店・デパート」(44.8%)、「バリエーションショップ」(41.2%)という結果となっている。

多くの商品があり選ぶことができるドラッグストアや、美容部員が接客してくれる百貨店・デパートなどが支持を集めている。

女性500名を対象に美容に関するアンケート

アイリックコーポレーション

ある(15.8%)、「まあ関心がある」(49.4%)、「どちらともいえない」(18.0%)、「あまり関心がない」(8.8%)、「関心がない」(8.0%)となり、約65%は関心があることがわかった。美容に対して悩みがあるかを尋ねたところ、90.4%が「ある」と回答し、部位別では、1位



「しみ」(50.4%)、2位「毛穴」(39.4%)、3位「しわ・小じわ」(32.8%)、4位「たるみ」(32.6%)、5位「くすみ」(28%)となった。全般に顔の悩みが上位にランクインし、老化が原因の「もう少しお金をかけたい」(5.4%)、「もう少しお金をかけたい」(31.3%)、「適切な金額」(43.5%)

IDA 有職女性300名対象にコスメに関する実態調査

アイ・ディ・アクセス(IDA)は、3月19日〜22日にかけて、全国の20〜49歳の有職女性300人を対象に、「コスメに関する調査」を実施した。

初めてメイクをしたのはいつか尋ねたところ、「高校生」が26.0%で最多となった。30代は高校生が28.2%が1位、40代は「大学生」が29.7%で1位となっている。20代は「小学生以前」(10.5%)から「社会人」(18.4%)まで幅広くばらける結果となり、「していない」(10.5%)も含めて分散傾向がみられた。

タッチアップを受けたのは、「化粧品を試したかったから」(61.4%)が1位、「化粧の方法を教えてほしかったから」(41.4%)が2位となったが、20代では「気になる商品があったから」(61.5%)が2位についた。全体とは違う結果になった。